



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2010.4

No. 312

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



銚子沖海上ウォッチング体験記

— 見ているのに 見えていない —

浅見 徹(さいたま市)

海の無い埼玉県に生まれ育った私にとって、海鳥はちょっと遠い存在。まして、船に乗っての洋上バードウォッチングなど、めったに無い機会です。何とか仕事と家庭のやりくりをして、勇んで参加となりました。

今回の自分なりの目標は、カモメ基本7種を自力で識別することと、海鳥を1種でも多くライフリストに加えることでした。結果は……。目標を達成できたような、できなかったような。すばらしい体験と、少しの反省点をまとめてみます。皆さんの鳥見ライフに少しでも参考になれば幸いです。

● いざ、出航！



(鏡のような外川港内銚子マリーナに浮かぶフルパー号と参加者たち)



(出航直前。ライフジャケットを着用し、船室内で説明を受ける。不安気なAさんと余裕のTさん)

2010年1月30日(土)、貸し切りバスで大宮駅前を8時に出発。車中で早めの腹ごしらえをして、正午頃、銚子マリーナから洋上観

察船“フリッパー号”に乗船しました。この船、本来はイルカ・クジラウォッチング用の乗合船ですが、今日は支部貸切バードウォッチング船です。快晴、ベタ風の太平洋に、いざ出航！

● さすがに太平洋！

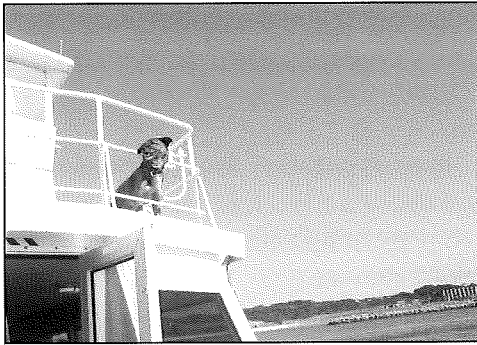
まず初めに目に入ったのが、首をやや下方に伸ばして海面を低く飛ぶ大型の鳥。「あれ、アビの仲間じゃない!? ヒャー、初めてだよ！」。

初めのうち、船首に陣取って張り切って鳥を探していましたが、防波堤を出た頃から揺れが大きくなり、船首で碎けた波しぶきを浴びながら身体を支えて双眼鏡を握り締めて…さすがに太平洋！ベタ風に見えても、この程度の揺れは避けられないようです。

船の右舷、左舷で、見られる鳥が違います。そこで、船首で両方をと考えたのですが、甘かった。双眼鏡に防水機能が無いため、仕方なく順光となる左舷に移動しました。

カモメの仲間が群れています。何だろうとぼんやり見ていると、船と同行して海面ストレスに、小さな翼・早い羽ばたきの灰色の小さな鳥が飛んでいきます。「ウミスズメ！」の声に、慌てて双眼鏡で追いかけますが、一瞬だけ視野に入れるのがやっと。後で聞くと、カムリウミスズメだったかも知れないのですが、私には識別ポイントが何も見えていませんでした。

次に出たのがトウゾクカモメ。カモメ類の群れに襲いかかる、まさに盗賊行為を目撃し



(船酔い知らずの看板犬フッパ、名は船と同じ)



(海鳥を探すEさん。波しぶきと、手摺柱と水平線の角度を見てください。かなり揺れているのです)

てしまいました。しかし、肉眼でその行動を追うのに夢中になり、スプーン状の尾羽を双眼鏡で確認するのを忘れていました。

こんな状態で、次々と出てくる海鳥は、目には入るのですが、ちゃんと識別できているとは言い難いものでした。

そこで、復路は作戦を変更してベテラン海鳥ウォッチャーEさんの隣に陣取ることになりました。復路、教わりながら見た海鳥は、コアホウドリ、シロハラトウゾクカモメ、ウトウ、シロエリオオハム、クロガモ、ピロードキンクロなどで、往路と比べて格段に種類をかせぐことができました。

● 鳥合わせ

帰りのバスの中、Eさんによる鳥合わせ。2日目(1/31)の波崎港・銚子港などでの観察も含めて、観察種数は61種にもなりました。

この内、私が自信を持って「見た」と言えるのは、47種(77%)。まあ、こんなものでしょう。同じ状況に置かれても、前もって識別ポイントが頭に入っていると、その場で図

鑑を頼りに確認するのでは、大きな差が出てしまいます。特に、船上からの海鳥ウォッチングは、一瞬が勝負。知識と経験の差を痛感しました。

● 納得の5種

さて、目標の達成度は？ マイ・ライフリストに何を加えるか？ 散々迷った結果、以下の5種類にしました。カッコ内は、私が勝手に納得している観察&確認できた特徴です。異論・反論があるかも知れませんが、ご容赦を。

- ①コアホウドリ(翼上面全体の黒褐色と、反転したときの翼下面の白い閃き)
- ②クロガモ(全体的に黒い翼と、鮮やかな黄色の嘴)
- ③ピロードキンクロ(翼鏡の白と、雄の目の周りの白い勾玉模様)
- ④トウゾクカモメ(全体的に黒っぽい色調と、カモメ類に対する盗賊行為)
- ⑤シロハラトウゾクカモメ(Eさんから教えてもらったトウゾクカモメ類特有の飛び方と、白い腹で、翼下面に白色部なし)

④と⑤の特徴的な尾羽は見逃しましたが、上記特徴の印象が深く、見られた喜びが大きいためライフリストに加えることにしました。

アビ類3種(アビ、オオハム、シロエリオオハム)も見ているはずなのですが、それぞれの識別が出来ていないので、今回はリストアップを控えました。次回のお楽しみということですが。

もうひとつの目標、カモメ類基本7種の自力での識別は……銚子港・波崎港でトライしましたが、堤防に止まるカモメ類のあまりの多さに圧倒され、カモメ酔い。5種にとどまりました。

大きな満足感と、心地よい疲労感でウトウトしていた帰りのバス車中から、ハシブトガラスが煙突のてっぺんで煙を浴びる姿「煙浴」を見てしまいました。話には聞いていたが見るのは初めて。面白い光景でした。これも、知っていたから見えたので、知らなければ見逃していたでしょう。世の中のことみな同じで、見ているつもりでも、見えていないことが沢山あるのでしょうか。

**銚子沖海上ウォッチング研修に参加して
青木正俊(さいたま市)**

私は船酔いをする。以前、羅臼で漁船に乗り流氷の上のオオワシを見たときも、2年前の三宅島探鳥会の時も大変なことになってしまった。なんと、陸から波に揺られている鳥を見ている船酔い？することもあるくらいだ。そんな私が、銚子から太平洋の荒波に揉まれ、海鳥を見るというのも、無謀といえば無謀である。

しかし、船上から海鳥を見る魅力。あの広い海を優雅に飛翔する姿は、陸の鳥には見ることが出来ない。散々迷った挙句、行く事に決めた(実はあんまり迷っていないんですが)。

早速インターネットで、船酔い防止には「船に乗る2時間前に腹5分目」「柑橘系は食さない」という知識を得、当日はその通り実行。しかし船を見た途端、「小さいな～。揺れないかな～。不安だな～」。添乗してくれる可愛い女性案内人に「今日酔わないかな～?」「大丈夫ですよ。トイレありますから!」「……」。

出発。すぐ船は上下左右に揺れだし「ぐおー。揺れてきた～」。それでも甲板に出て、飛び交う海鳥たちを堪能。小船なので揺れはひどく、双眼鏡に鳥を入れるのも大変だが、大きな船と違い、海鳥はすぐ近くまで寄ってくるので、双眼鏡に捕らえれば、虹彩までばっちり。

トウゾクカモメがカモメの捕まえた餌を横取りするシーンまで見ることが出来た。「ヒエー、凄いな～。一生懸命働いて、給料をもらってもすぐとられちゃうのといっしょだな」なんて冗談も言えるほど余裕で、船酔い無し!小舟で見る時は、波に浮かんでいる鳥よりも、飛翔している鳥の方が見やすい感じ。

あつという間の1時間45分。実は最後の15分は気持ちが悪くなり辛かったけど、それ以外はほとんど酔わず、陸からはなかなかお目にかかれない海鳥たちを見ることが出来て大満足。

「いや～、こんなに揺れたのにほとんど平気だったな～。俺も海の男になろうかな!」。船長が「今日はほとんど揺れませんでしたね。こんなベタ風はなかなかないですよ。」「……」。やはり海の男は諦めよう。

**2009年度埼玉県支部鳥見ランキング結果
普及部**

恒例となりました埼玉県内鳥見ランキング、2009年の結果を発表いたします。

観察鳥種数部門は、昨年2位の船木数樹さんが新チャンピオンに輝きました。昨年度チャンピオンの記録161種を6種も上回る記録です。2位の浅子和代さんも159種と、堂々の記録でした。

探鳥会参加ランキングでも、船木数樹さんが新チャンピオンに輝きました。藤掛支部長も50回を越える記録でしたが舟木さんに軍配が上がりました。

2009年観察鳥種数ランキング

| 順位 | 鳥種数 | 氏名 | 住所 |
|----|-----|-------|-------|
| 1 | 167 | 船木 数樹 | さいたま市 |
| 2 | 159 | 浅子 和代 | さいたま市 |
| 3 | 142 | 佐藤 宏 | 越谷市 |
| 4 | 140 | 千島 康幸 | 小川町 |
| 4 | 140 | 野口 修 | 川口市 |
| 6 | 124 | 玉井 正晴 | 蓮田市 |
| 7 | 119 | 新部 泰治 | さいたま市 |
| 8 | 118 | 内田 克二 | さいたま市 |
| 9 | 116 | 吉原 早苗 | 北本市 |
| 10 | 114 | 田邊八州雄 | 越谷市 |
| 11 | 113 | 吉原 俊雄 | 北本市 |
| 12 | 107 | 久保田忠資 | 狭山市 |
| 13 | 104 | 榎本 秀和 | 鴻巣市 |
| 14 | 101 | 田中 幸男 | 蓮田市 |
| 15 | 93 | 須崎 聡 | 川口市 |
| 16 | 92 | 橋口 長和 | 春日部市 |
| 17 | 86 | 浅見 徹 | さいたま市 |

2009年探鳥会参加ランキング

| 順位 | 参加回数 | 氏名 | 住所 |
|----|------|-------|-------|
| 1 | 53 | 船木 数樹 | さいたま市 |
| 2 | 51 | 藤掛 保司 | 川越市 |
| 3 | 38 | 野口 修 | 川口市 |
| 4 | 35 | 吉原 早苗 | 北本市 |
| 5 | 32 | 吉原 俊雄 | 北本市 |
| 6 | 30 | 新部 泰治 | さいたま市 |
| 7 | 27 | 武井 昶嗣 | さいたま市 |
| 7 | 27 | 浅子 和代 | さいたま市 |
| 9 | 26 | 千島 康幸 | 小川町 |
| 10 | 24 | 内田 克二 | さいたま市 |
| 11 | 19 | 佐藤 宏 | 越谷市 |
| 12 | 15 | 須崎 聡 | 川口市 |
| 12 | 15 | 榎本 秀和 | 鴻巣市 |
| 14 | 13 | 浅見 徹 | さいたま市 |



野鳥情報

横瀬町県民の森 ◇12月19日、デイ・キャンプ場付近の沢沿いでヤマドリ♂1羽。東端の東屋付近でカヤクグリ1羽（鈴木敬）。

蓮田市西城沼公園 ◇12月23日、シジュウカラ6羽がナンキンハゼの白い実を食べていた。ハイタカがカラスに追われて屋敷林に飛びこんだ。農家の庭先のロウバイが咲き始めた。12月30日、エナガ10羽＋、メジロ4羽、シジュウカラ3羽＋の混群がクヌギの樹冠を移動して屋敷林に消えた。カケス1羽がナラ林で鳴きながら枝移り。1月3日、東沼フェンス上にアカハラ1羽。1月6日、小形のタカがナラ林で鋭い声を上げながら小鳥を追っていた。ハイタカか？ 植木畑でエナガ2羽、シジュウカラ2羽、メジロ3羽が群れで枝移り。ヒヨドリ20羽＋がブロッコリーの葉っぱに群がっていた。その中に尾羽が無い個体が1羽。1月8日コジュケイの声が響く。エナガ2羽。シロハラ、アオジが地面で採餌。1月13日、林の縁でシロハラが日向ぼっこ。動かない！ 1月18日、ムクドリが4組♂♀2羽で行動。番いになったようだ。ヒヨドリ50羽士がキャバツに群がっていた。1月22日、エナガ6羽、シジュウカラ3羽の混群が雑木の枝先で採餌。1月25日、オオタカがカラスにモビングされて東方に飛び去った。チョウゲンボウが屋敷林に飛び込んだと思ったら、ヒヨドリが10数羽大騒ぎしながら飛び出した。散歩の古老と立ち話。目の前の竹杭にジョウビタキの♀。「昔はヒッカタと呼んだ」とのこと。西城沼公園では、今年はエナガが目につく一方、コジュケイが減少しているようです（長嶋宏之）。

蓮田市堂山公園 ◇12月24日、トビが上空でゆっくり輪を描いて南に飛び去った。シロハラが枝移りして、シメがこれを追った。その他メジロ、ハクセキレイ、ヒヨドリ（細田敦史）。

蓮田市黒浜 ◇12月27日、黒浜貝塚でウグイス、ホオジロ、アオジ、カシラダカ、カケ

ス5～6羽など。メジロが小群でツバキの蜜を吸いにきていた。1月27日、東埼玉病院でエナガ、ヤマガラ、シロハラ、ビンズイ、キクイタダキ、アオジ、カシラダカ、ツグミ、ジョウビタキ、ウグイス、アオサギなど（本多己秀）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇12月26日、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ハイタカ♂1羽、オオタカ成鳥1羽、コジュケイ2羽、イカルチドリ7羽、イソシギ、カワセミ♂1羽、キセキレイ、ジョウビタキ♀、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、メジロ、エナガ2羽、アオジ、ホオジロ、シメなど。ガビチョウがぐぜっていた（鈴木紀雄）。◇12月30日午前11時～午後1時、村国池手前の水が流れている湿地内で水飲み、水浴び、餌取りのルリビタキ♂。キセキレイ、アオジ、ジョウビタキ♀、シロハラ、アカハラ、カケス、シジュウカラ。公園内で特に目立った鳥はカワセミ、シメ、ホオジロ、モズ、ツグミ、メジロ、コゲラ、カワラヒワ。公園は年末年始休園の為、人が少なく通常より探鳥しやすかった。今日の収穫はアカハラが梅の木で盛んにさえずりをしていたことでした（大塚操）。

菖蒲町柴山枝郷 北緯36.0414 東経139.6043

地点とその付近 ◇12月29日、ミヤマガラス300羽士に混じってコクマルガラス淡色型4羽、暗色型10羽＋が切り株の残っている田んぼで採餌。1月14日、ミヤマガラスの群れが田んぼで採餌。やがて100羽の群れと200羽の群れに分かれた。200羽の群れの中に、コクマルガラス淡色型6羽、暗色型30羽士。屋敷林から頭上を越えて流れるとき「ミャァー、ミャァー」と鳴く声が聞こえた（長嶋宏之）。1月24日、コクマルガラス淡色型2羽、暗色型数羽がミヤマガラスと並んで電線にいた（竹山峯義）。

鴻巣市見沼代用水 ◇12月29日、境橋でアメリカヒドリ1羽、ヨシガモ♂2羽のほか、ヒドリガモ30羽士、コガモ、マガモ、オオバンなど。皆、頭を川上に向けていた。流れがあるのに止まっているのは、足で一生涯懸命水を櫂でいるのだらう。突然、ヨシガ

モが潜った（長嶋宏之）。

鴻巣市郷地 東経139.5380 北緯36.0715

◇1月4日、コチョウゲンボウ1羽、田んぼの畔において、辺りをうかがっていた（長嶋宏之）。

鴻巣市鎌塚 ◇1月7日午前9時頃、我が家の庭の植え込みでウグイスの地鳴き（寺山聖二）。

羽生市羽生水郷公園 ◇12月29日、湿地でアオサギが首をすくめて日向ぼっこ。池ではヨシガモ♂1羽がカルガモを従えてゆっくり泳ぎ、アシ原ではカシラダカが横に舞った。通路をジョウビタキ♂が右に左に道案内、突然キジ♀2羽が足元から飛び立った。今日は4羽目だ。水ぎわのアシ原でベニマシコの♀が草の実を食べていた。ノスリが翼を浅いV字にして高く舞い上がり、トビがゆっくり輪を描いていた（長嶋宏之）。

渡良瀬遊水地 ◇12月30日夕刻、チュウヒ約10羽、ハイイロチュウヒ♂4羽♀3羽、ノスリ、ミサゴ、ハヤブサなど（鈴木紀雄）。

川口市西新井宿 ◇1月1日、トラツグミ1羽、顔しか見えなかったが、黒斑がはっきり見えた。年始から「今年の鳥」が見られて、幸先がいい。1月3日、ルリビタキ♀1羽、竹やぶの中にいたが、ちょっと姿を見せたと思ったらすぐに飛んで行ってしまった（須崎聡）。

桶川市ホンダエアポート ◇1月4日、滑走路脇の芝生にタゲリ25羽土。盛んに採餌していた（竹山峯義）。◇1月14日 同じ場所にタゲリ30羽土。三三五五散らばって、思い思いに行動していた（長嶋宏之）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇1月4日、昭和沼でヒドリガモ、カルガモ、マガモ、コガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ等多数。ヨシガモ3羽、オオバン、カンムリカイツブリ多数など（本多己秀他3名）。◇1月17日、亜種ホオジロハクセキレイが芝生を歩いていた。松林でビンズイ2羽が採餌（長嶋宏之）。

久喜市清久町清久大池 ◇1月10日、アカハラ1羽、シメ1羽、ミヤマガラス約60羽、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、

カワウ。ミヤマガラスは道路と人家の上に低く群舞していた（本多己秀）。

北本市北本自然観察公園 ◇1月14日、東屋の前でヤマシギが採餌していた。橋を渡った右側でミヤマホオジロ♂♀が本日2回出たと教えてもらった。木道でルリビタキ♂1羽。人懐こく近くまで来る。その奥の梅林の湿地でタシギが距離3mで採餌（長嶋宏之）。

熊谷市善ヶ島 ◇1月15日利根川河川敷左岸アシ原（妻沼ゴルフ場）で、ハイイロチュウヒ♀の飛翔を見ました。白の上尾筒で確認できました（寺山聖二）。

深谷市本田（旧川本町） ◇1月17日午前、白鳥飛来地で対岸にツメナガセキレイ（亜種キタツメナガセキレイ）1羽を確認。順光でたっぷり楽しむ。こういう鳥はいくら眺めていても飽きることはない。なお、当地はキセキレイも多く見られるため、慎重な識別が必要である（榎本秀和）。

坂戸市赤尾 ◇1月21日、老人福祉センターことぶき荘近くの越辺川で、コハクチョウ約100羽の群れの中に、亜種アメリカコハクチョウ1羽。他にオオバン、オナガガモなどが多かった。対岸の川島町による給餌は、昨冬より中止されている。近くの河畔林の木に、カモの群れを狙っているのか、オオタカがとまっていた（増尾隆）。

羽生市羽生水郷公園 ◇1月21日、キンキン羽音を響かせてカルガモの群れが上空を旋回。ここではホオジロ♂対♀=3対1で♂が多かった。セイタカアワダチソウの実を食べていた。カワラヒワ27羽が芝生で静かに採餌。食べている時は声を出さない。春の陽気に誘われたのか、カイツブリがあちこちで鳴いていた。その他、ヨシガモ♂3羽♀2羽（長嶋宏之）。

表紙の写真

ブッポウソウ目カワセミ科カワセミ属カワセミ 昨年4月。天気がよく、菜の花にとまったりホバリングしたり、飛び回っていました。桜も満開で大勢の人が出ていて、見た人は喜んでいました。 **砂永一行（本庄市）**



行事案内



キジ(新井巖)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月4日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から「北里メディカルセンター病院」行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野(安)、山野、長谷川

見どころ：満開の桜に人出で賑わう石戸宿です。しかし去年は、賑わいの中でも赤や青の鳥も出てくれて 39 種でした。鳥と花を楽しみながら歩きます。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：4月4日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口②番バス乗り場から、「東川口駅北口」行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)、野口

見どころ：春の訪れを、目で花や鳥、耳でさえずり、鼻で花の香りを感じることでできる探鳥会。来たばかりのツバメたちにも会えるでしょう。

さいたま市・田島ヶ原自然観察会

期日：4月10日(土)

集合：午前9時、田島ヶ原サクラソウ公園ト

イレの近く。

交通：浦和駅西口から「志木駅東口」行きバス 8:25 発、または東武東上線志木駅東口から、「浦和駅西口」行きバス 8:10 発で、「さくら草公園」下車、徒歩約 5 分。西浦和駅から徒歩約 20 分。

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)、船木

見どころ：テーマは「サクラソウの自然史」。

サクラソウの花を見ながら、繁殖生態、生活史、自生地の存亡について学び、本来の生育環境について、荒川(入間川)の自然史の中で考えてみましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：中里、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼、岡田

見どころ：陽差しも暖かくなり、春一色の大麻生です。去り行く冬鳥に再会を期待しつつ、遠来の夏鳥をも楽しみます。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：4月11日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前駅前。

交通：秋津 9:05→所沢 9:09→西所沢乗換え
9:15→西武球場前 9:20 着。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、持丸、小林(ま)、水谷、間正

見どころ：「鴨去燕来」の時節です。去りゆくカモたちに別れを告げ、夏鳥の先兵を探して、芽吹き始めた林を歩きます。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月17日(土) 午後3時～4時ころ
会場：支部事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小管、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ：新緑の季節。昨年は見沼代用水の葉陰で、センダウムシクイを初めて観察。三室の探鳥会はいつもの鳥を楽しむことが中心ですが、季節、季節に、ドキッとすることも。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月24日(土)

集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス③番から、国民年金春日部エミナース行き 8:53 発で「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩約7分。

担当：石川、橋口、新井(良)、吉岡(明)、野村(弘)、野村(修)、進士、佐藤

見どころ：夏鳥との遭遇を楽しみに新緑萌える雑木林を巡り、屋敷林脇の小道を抜けて、田の中の道を歩きます。

東松山市・物見山探鳥会

期日：4月24日(土)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越

えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口から、川越観光バス「鳩山ニュータウン」行き 8:53、9:04 発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：中村(豊)、藤掛、岡安、志村、後藤、増尾、高橋(優)、林、山田(義)

見どころ：若葉薫る里山、ウワズミザクラが咲き、足元にはチゴユリの花。雑木林を歩けば旅の途中のオオルリ、キビタキに会えるかもしれません。上空の猛禽にも注意。

さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月25日(日)

集合：午前9時10分、桜区役所バス停付近。

交通：京浜東北線浦和駅西口バスロータリー5番乗り場から、「大久保浄水場」行き 8:34 発で「桜区役所」下車。

担当：倉林、海老原、福井、新部、赤堀、増田、船木、金子

見どころ：渡りの季節がやってきました。オオルリ、キビタキだけでなく、田んぼの鳥や空のタカ類も楽しめます。

大久保農耕地シギ・チドリ類調査

期日：4月29日(木・祝)

集合：午前9時30分 大久保浄水場北西角近くの土手の上、グラウンド入口。

担当：石井智

研究部担当の調査です。解散は昼頃。調査のため参加費は不要。雨天でも実施。シギ・チドリが大変少ないこともあります。

東京都・三宅島探鳥会(要予約)

期日：5月7日(金)(夜行・船中泊)～9日(日)

集合：7日(金)午後8時30分、JR山手線浜松町駅(東京寄り改札口前)。

出航：7日午後10時30分、東京港竹芝棧橋。三宅島到着は8日午前5時の予定。

帰着：竹芝棧橋に9日午後8時30分の予定。費用：30,000円(1泊3食、2等往復船賃、懇親会費、保険料など)。過不足の場合は当日

精算。その他島内常時必携ガスマスク代2,520円、島内移動バス代1,300円、集合地までの往復交通費などは別途各自負担。

所持品：8日の朝食と昼食。

定員：20名（先着順、県支部会員優先）。

申込み：往復はがきに、住所、氏名、生年月日、年齢、性別、電話番号(携帯も可)、喫煙の有無を明記(乗船名簿記入、保険料、部屋割りのため必要)して、藤掛保司(〒
)まで。4月1日消印以降から有効受付とします。

担当：藤掛、青木、榎本(秀)、石光、宇野澤
見どころ：昨年探鳥会では48種を観察。詳細は『しらこぼと』09年7月号をご覧ください。到着から、帰路の洋上観察までの盛り上がりが判ります。

ご注意：①火山性ガスの影響があるかもしれません。呼吸器官等健康に不安のある方はご遠慮ください。

②天候などで帰りの船が欠航し、予定通り帰れない場合もあります。

栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：5月16日（日）

集合：午前7時、JR大宮駅西口ソニック大ホール前広場。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

帰着：当日午後7時30分ころを予定。

費用：6,000円の予定（バス代、高速料、保険料など）。過不足の場合は当日精算。

定員：20名（先着順、県支部会員優先）。最少催行人員は15名。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢(保険加入で必要)、電話番号を明記して、入山 博(〒
)まで。

4月1日消印以降から有効受付とします。

担当：入山、玉井、藤澤、星、田邊

見どころ：湯滝から、湯川沿いを戦場ヶ原、光徳牧場まで大自然を満喫しながら歩きます。キビタキ、オオルリ、ノビタキ、ホオアカなどを探します。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：5月22日（土）～5月23日（日）

集合：22日午前9時00分、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」（東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:50→長野8:43着）、または「あさま505号」（東京7:28→大宮7:52→長野8:53着）

費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充(〒
)まで。4月1日消印以降から有効受付とします。

担当：菱沼(一)、藤掛、中里

見どころ：赤、青、黄と着飾った歌い手たちのオンパレード。今年こそは、憧れのあの鳥に出会うことが出来るでしょう。

ご注意：宿泊を伴う探鳥会は、すべて男女別の相部屋です。個室の用意はできません。

栃木県支部から掲載依頼

栃木県支部の奄美大島探鳥ツアー

6月4日(金)～6日(日) 2泊3日

旅行代金 99,800円(会員価格)

内容 野鳥の会鹿児島支部奄美大島担当の案内で、ルリカケス、アカヒゲなどに会いに行くツアーです。

集合 羽田空港 4日 7時30分

解散 羽田空港 6日 21時頃

申込締切 4月2日

定員 35名 最少催行 20名

問合わせ・申込み先 栃木県支部事務局

TEL (火～土曜、10～17時)

FAX

Mail



行事報告

5月31日(日) リーダー研修会

参加：26名 場所：さいたま市民会館うらわ

救急法簡易講習会を実施し、日本赤十字社埼玉県支部の指導員から、心肺蘇生法の実技とAEDの使い方を学んだ。(橋口長和)

9月6日(日) リーダー研修会

参加：40名 場所：埼玉県自然学習センター

リーダーのブラッシュアップ研修と新規リーダー研修をあわせて行った。(橋口長和)

11月22日(日) 狭山市 入間川

参加：25名 天気：曇時々雨

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トビ オオタカ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) (番外：ドバト) 稲荷山公園裏の入口にムクノキが数本あり、シロハラ、アカハラ、ツグミが集まっていた。毎年同じ木の下を通っているのだが、シロハラ、アカハラが見られたのは初めて。10数年やっている定例探鳥会でも、新しい発見や出会いは楽しく、次回への活力となる。(長谷部謙二)

11月23日(月、休) 本庄市 坂東大橋

参加：31名 天気：快晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ カワアイサ トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ シロチドリ ハマシギ キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ

ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシブトガラス

(38種) 予定の猛禽類は早々とゲット。個体数は少ないながら冬の小鳥達も順調に確認される。河原に出ると14羽のカワアイサがお出迎え。そして水面近くを約25羽のシギ・チドリ類が集団飛行。飛び姿から「ハマシギ!」と叫んだら、「首に輪がある」との声。チドリだった(汗)。それから「輪が切れている」、「つながっているのもいる」等と侃々諤々。ずっと近寄って、ハマシギ1羽と他はシロチドリで決着。チドリで盛り上がったので予定時間を30分超過、最後は急ぎ足に。(新井 巖)

11月28日(土) 栃木県 奥日光

参加：37名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ マガモ ヒドリガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ オジロワシ オオワシ オオタカ オオバン イカルチドリ アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ カワガラス ミソサザイ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ カシラダカ シメ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 菖蒲ヶ浜に到着直後に対岸の木に止まるオオワシを見ることができた。湯滝に移動し、小滝まで往復してキバシリ、カラ類、カワガラス等を楽しんだ。圧巻は千住が浜柳沢川のオジロワシで、枝にしばらく止まった後に川に下りて、魚をつかんで我々の頭上を飛び去る様子を、全員で間近から夢中になってみつめた。中禅寺湖のカイツブリ類やカモたちを見た後、オジロワシの勇姿を胸に帰途についた。(玉井正晴)

11月28日(土) 志木市 柳瀬川

参加：35名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) (番外：ドバト) 昨年より約3週間後ろにずらしたお陰で冬鳥はほとんど来ていた。今年の

2月と同じ種類数を観察できたが、野鳥の数が非常に少なかった。これは柳瀬川だけの傾向ならば良いのだが少々気になる現象である。水谷たんぼでは杭に止まっていたチョウゲンボウを全員でゆっくり観察。更に、高橋下流のゴルフ練習場前の中洲にタシギを探しに行ったが、残念ながら観察出来なかった。しかし、イカルチドリは観察出来た。(持丸順彰)

11月29日(日) 蓮田市 黒浜沼
参加：54名 天気：晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ダイサギ チュウサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ ハイタカ チョウゲンボウ バン オオバン タゲリ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) (番外：ドバト) まず、チョウゲンボウが現れ、カマキリを捕らえて食べる様子を皆で見ることができた。上沼では枯れたハスに潜んでいたヨシゴイを皆で見ていると、目の前を飛んで近くの藪に逃げ込んだ。田んぼでは久しぶりのタゲリに参加者たちの歓声が上がった。期待される冬鳥はほぼ見ることができた上、オオタカが何度も空を飛び、ハイタカまでカラスに追われて現れた。豪華な出演者多数で、たっぷりと楽しめた。(玉井正晴)

11月29日(日) さいたま市 秋ヶ瀬自然観察会
参加：18名 天気：晴後曇

ノスリ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ シメ ハシブトガラス (13種) 本部自然保護室の山本さん、葉山さんを招いてのスポットセンサス講習会。2分刻み10分の調査を2カ所で行った。2分毎に半径50m以内の鳥の種類と数を、さえずりとその他(地鳴き、目視)で成鳥、幼鳥(繁殖期のみ)を分けて記録用紙へ記入。ヒヨドリの鳴き交わりで数の把握が困難。地鳴きをした鳥を的確にとらえる耳が必要。森では視覚より聴覚での調査が主に。データ集計の際は、1カ所、種毎の最大数を当地の生息数として使用とのこと。参加者それぞれ調査方法に関し手ごたえを

感じたようだ。

(小荷田行男)

12月5日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水地
参加：36名 天気：曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ バン オオバン セグロカモメ キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (51種) (番外：ドバト) 釣人多く、水鳥少ないが歩き始めると遠くにホオジロガモはじめ、カモ類はそこそこ観察された。中ノ島をすぎるとワシタカ類も姿を見せた。ハヤブサもいつものところで待っていてくれた。タカ科5種、ハヤブサ科2種。皆「やっぱり遊水地」といつてくれた。このへんで小鳥と思った所で、ベニマシコ♀♀が仲良く出現。一同静かな歓声。出現鳥51種となり、ご満足いただけたと思う。

(内田孝男)

12月6日(日) 北本市 石戸宿
参加：54名 天気：快晴

アオサギ マガモ カルガモ コガモ ノスリ コジュケイ キジ クイナ バン キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) (番外：ガビチョウ) ここでは、鳥と人の距離が近い。ジョウビタキ♀は、「私を見て」と言わんばかりに、小休止する我々の傍を離れず。ヤマガラに至っては、伸ばした手に触れそう。ノスリも真上で低空旋回し、陽光に輝く翼を存分に見せてくれた。餌付けしているわけではない。信頼関係が出来ているのだろう。この関係、いつまでも!

(浅見 徹)



● **渡良瀬遊水地ラムサール条約登録に前進**

本部保護室長古南幸弘氏の2月17日付けメールによると、16日参議院議員会館で開催された「ラムサール条約登録湿地を増やす議員の会(川口順子会長)総会」で、国土交通省河川局河川環境保全調整官が、渡良瀬遊水地の登録が大きく前進する方向で報告をしたとのこと。

栃木県支部高松健比古氏によると、国交省利根川上流河川事務所が2002年に設置した「湿地保全・再生検討委員会」(高松氏も委員の一人)では、25日の第10回会合で採択された基本計画案に、「渡良瀬遊水地をラムサール条約湿地に登録する地元の声も尊重し(中略)将来はトキやコウノトリが舞うような魅力的な地域づくりの一助となるよう関係者と協働・連携を強めていく」と明記した。昨年5月に柳生会長を招いて開催された栃木県支部と地元NGO共催のシンポジウムを契機に、周辺自治体がラムサール登録を目指す姿勢に大きく転換した。一方、国交省と農水省の連携で、トキとコウノトリの野生復帰を関東地方で図ろうという「南関東エコロジカル・ネットワーク形成に関する検討委員会」が始まり、渡良瀬は候補地のひとつにあげられるとのこと。

渡良瀬に隣接する「小山市など栃木県南部水田」がシギ・チドリ的重要渡来地として既にラムサール条約登録の条件を満たしているようで、群馬・茨城・埼玉県側の隣接水田まで含めた登録も視野に入ってきた、との情報もあります。

● **鳥獣保護員推薦**

平成22年度県鳥獣保護員として、従来に引き続き、小荷田行男、福井恒人の2名を推薦しました。

● **普及活動・感謝状等授与**

1月28日(木)に開催されたさいたま市北公

民館主催の自然観察会には合計21名が参加、松村禎夫・赤坂忠一が指導しました。

本庄市在住の町田好一郎会員が、「17年の永きにわたり広報『ほんじょう』に地域の野鳥の姿を寄稿、本庄市の広報活動に多大に協力した」ことに対し3月1日付け感謝状を、吉田信解市長から授与されました。また、「こんにちはいっと6けん」で放送された「ツバメチドリ繁殖記録」が優秀賞に選ばれ、NHKさいたま放送局長から3月6日付け賞状を授与されました。

● **会員数は**

3月1日現在 2,084 人です。

活動と予定

2月13日(土) 3月号校正(海老原美夫・山田義郎)。

2月21日(日) 役員会(司会: 浅見徹、各部の報告・緊急連絡カード・5~8月の行事予定・その他)。

2月22日(月) 「支部報だけの会員」に向け3月号を発送(倉林宗太郎)。

● **4月の予定**

4月3日(土) 編集部・普及部・研究部会。

4月10日(土) 5月号校正(午後4時から)。

4月17日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

4月18日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

先月号の特集を読みながら、今月号の野鳥情報「菖蒲町 北緯 36.0414 東経 139.6043」の位置を調べてみた。驚いた。その場所がピンポイントで実に正確によく分かる。付近の景観も分かる。航空写真に切り替えるとおおよその植生まで分かる。「ああ、鳥の目にはこのように見えて、そして、この場所を選んでここにおりるのだな」とも考えた。癖になりそうだ(山部)。

しらこぼと 2010 年 4 月号(第 312 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamazekuzoku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社